

我がチラ裏ブログより転載

ふちんかん <http://www.ma-2.com>

✿ インターバル撮影専用カメラ レコロ

fuchinkan (2011.11.23 22:11) | [PC ネット関連](#), [写真関連](#), [地学](#), [理科](#) | [個別ページ](#) | [コメントはまだありません](#)

キングジムより発売のインターバル撮影しかできないカメラ(ビデオ?) がレコロ (recolo)です。

http://www.kingjim.co.jp/sp/recolo_ir5/

キングジムって会社はポメラといい、割り切りの良い製品を作る会社やね。

理科教育的には使いでのありそうなグッズです。

通販業者より5000円ちょいで購入。さっそく使ってみました。付属品は三脚のみ。



ベランダに設置、ヒモは落下防止のため

撮影間隔と1秒あたりのコマ数、色調(普通、カラフル、モノクロ)

しか選択する項目がありません。レンズは固定焦点、パンフォーカス

といたってシンプルですな。

データはSDカードに.AVI形式で出力されます。

✿ カメラ内でHDR

fuchinkan (2011.12.04 20:00) | [写真関連](#) | [個別ページ](#) | [コメントはまだありません](#)

OLYMPUSのXZ-1を買った。春に発売されて以来、唯一気になるコンパクトデジカメだったのだが、値段が高かったので手が出なかったモノだ。

この秋になって、円高の影響で韓国のショップがあり得ない値段(27700円)で出していたので自分への誕プレということで購入。マニュアルが日本語でない以外は国内版と何も変わらない。マニュアルなんてPDFでダウンロードできるからね。無問題だ。



さっそく貼り革やらオートレンズキャップやらハンドグリップやらをアタッチし、自分仕様に仕上げた。これらを足しても通販の正規価格よりも遥かに安いというのだから円高恐れ入る。

このカメラ、開放絞りの値がズーム全域で低い(明るい)ことが特長で、ズームアップしても手ぶれしにくい。

そしてOLYMPUSの最近のカメラに共通していえることだが、カメラ内でHDRを作り出してくれることも大きな特長だ。

明暗差の激しいシチュエーションでは、今までのカメラなら(フィルムカメラも含む)明か暗のどちらかを犠牲にするか、どっちつかずの露出しか選べなかったものだ。が、HDRでは、明るい部分は露出を落とし、暗い部分は露出を上げて合成することができるようになった。はっきりと明暗が分かれる場合に効果がある。

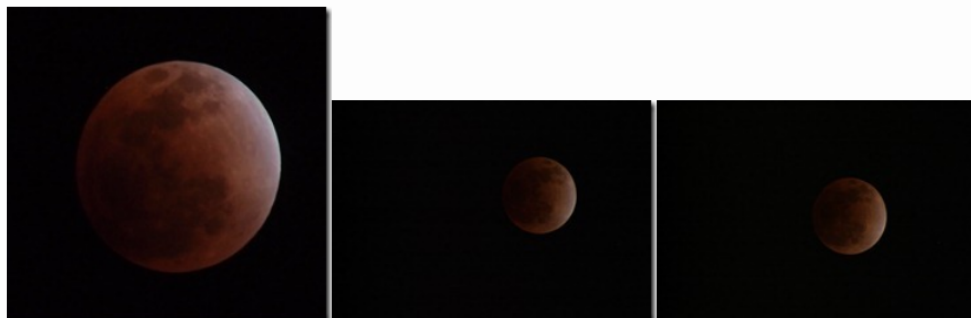
皆既月食観察できました

fuchinkan (2011.12.11 17:56) | [写真関連](#), [地学](#), [理科](#) | [個別ページ](#) | [コメントはまだありません](#)

当日の夕方まで曇り空で、いざとなったら**天気の良い地域へ移動**してでも見るつもりでしたが、雲の流れが速かったのと、tenki.jpでの時刻予想が日没以降は晴れ予想だったので、自宅で待機しました。月食1時間くらい前からは雲が切れ始め、月食時間帯は見事に快晴となりました。



今回の観測は気合いを入れて、インターバルカメラ2台、フィールドスコープ、望遠鏡、さらに一眼レフ2台に、マイクロフォーサーズ一眼、コンデジ2台と準備しました。インターバルカメラは月の動きと明るさの変化を捉え、一眼レフは一台はズームレンズ(35mm換算450mm)、一台は望遠鏡直づけ(同600mm)で撮影、マイクロフォーサーズ機はアダプターを介して、古きマニュアルカメラ時代の単焦点レンズ+テレコン(同560mm)、さらにコンデジは望遠鏡の接眼レンズに直づけ(コリメート)撮影に使用。



23:05 皆既月食の始まりです。約50分続きました。

今回は地球の影の本影ギリギリを通る皆既月食だったので、若干、端が明るく見えていたように思います。

空全体を見渡すと、巨大な木星が出現したかと思うくらい赤茶色い天体が浮かんでいます。

普段の月はとてもまぶしく、他の星とは一線を画している存在ですが、今日に限っては他の星と同じような明るさで空に浮かぶ天体です。

また、望遠鏡を覗くと月の周りにいくつも星が見えました。これも普段ではあり得ないことです。

23:58 皆既終了。左側が地球の影から出てきます。

もっとも高度が高い時間です。まさに月天心。首が痛いです(^_^;)

私はマンションのベランダで観測していたので、ベランダの壁にすりつけるようにフィールドスコープや望遠鏡をセットしてはいたのですが、もはや限界です。皆既終了あたりから手持ちでの一眼レフでの撮影になります。

またマニュアル時代のレンズをつけていたマイクロフォーサーズ機は寒さのため、何度もエラーを吐きリタイア。意外なもろさを露呈させました。

✿ 写真を撮る楽しさ

fuchinkan (2011.12.18 20:46) | [写真関連](#) | [個別ページ](#) | [コメントはまだありません](#)

オクで入手したマイクロフォーサーズ機であるOLYMPUSのE-PL1 s が未だ手元にある。

XZ-1用のライブビューファインダーが目的だったのだが、E-PL1 s とレンズとのセットで激安だったので……さっさと本体・レンズは売ってしまうつもりだったのだが、手の大きさにじっくりくるサイズ、そしてPanasonicの14mm単焦点レンズも気に入ってしまった。そしてXZ-1につけるはずだったライブビューファインダーはそのままE-PL1 s に。完全に目的が変わってますね。分かってます。(^^;)



こうなるとマイクロフォーサーズの世界にどっぷり……ミイラ取りがミイラになるというパターンは今まで何度も経験しているわけだが、今回は魅力的なレンズが見あらず、幸いレンズ沼にはハマっていない。かわりに過去のマニュアルフォーカスレンズをつけるアダプタを3000円弱で購入、いままで絶賛お気に入り中だった小学生の頃から使い続けていたPENTAXのマニュアルレンズが息を吹き返した。(ちなみに本体であるPENTAX-MEとかSUPER-Aなどはシャッターが押せなくなって人知れず壊れていた。LXとME-superはちよくちよく空シャッターを押していたためか無事、機械ものは使わないとダメだね。)



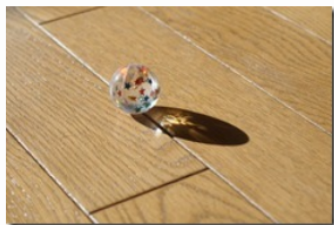
E-PL1 s でマニュアルフォーカスが使えるのは、ピント合わせの際にライブビュー画面でクローズアップしてくれるから。完全にピント合わせができる。もともとマニュアルフォーカスのPENTAXを使わなくなったのは、近視のためちゃんとしたピント合わせができていないと感じるようになったためだからこれはデジタル時代の朗報だ。

昔ながらの、絞りを優先による露出決定、ピント合わせ、シャッターという手順で写真を撮ることになる。

手軽ではない。

しかし楽しい。

これは、一昔前、写真が今のように子どもでも簡単に撮れてしまうものではなかった時代の優越感だ。露出を自分の意志で決定し、ピントを合わせ、タイミングを合わせてシャッターを切る、それが快感。そういったものが沸々とよみがえってきた。(あとはフィルム現像とか焼き付けとか……ああ昔は手間だったなあ) 今のカメラは手軽で日常の記録にはもってこいなんだが、作品づくりというか過程を楽しむ部分がざっくりと削られている、いや巧妙に隠されてしまっている。そんなことに気づかされただけでもE-PL1 s を入手した価値があったのかもしれないな(と後付けで正当化してみる)。



E-PL1s+RIKENON 45mmF2.8(35mm換算90mm)

✿ 2台目マイクロフォーサーズ機

fuchinkan (2012.01.02 23:28) | [写真関連](#) | [個別ページ](#) | [コメントはまだありません](#)

オリンパスのE-PL1 sをひょんなことから入手して以来、オールドレンズカメラとして急に注目したマイクロフォーサーズ機なわけだ。で、試し撮り目的で京都にふらっと行ってきたわけだ。

前述の写真を撮る楽しさ、そしてそれが手軽に行えるシステムを得たという良感触を得た。

その一方、オールドレンズをE-PL1 sで使う際に不便だと気づいた点もあった。それは縦位置でピントを合わせる際、クローズアップボタンがファイダーと顔の間に来て操作しにくいことであり、後付けのEVF（電子ビューファインダー）が向きを変えられることが災いして、中途半端に傾き、あらぬ方向にカメラが向いてしまうことがあることであった。またEVFと液晶画面をいちいち切り替えるのも手間に思えてきた。そして使い出して気になってきたのは、シャッターボタンの位置。あまりにグリップ間にセットされており指が余る。私はそんなに手の大きい方でもないと思うが、女性の手に合わせて作られる昨今の製品は、若干指を曲げるようにしないとシャッターが押せない。これは撮影のちょっとしたストレスになり、積みもり積みもれば「楽しくない」。

さて、ここからはますます表題の買ひ物の言い訳くさくなっていくが、全く無秩序に無駄買いをしているわけではないのだということを理解していただきたく（誰に？）書き進めることにする。

この1ヶ月、E-PL1 sが吐き出す写真を眺めて、写真そのものは普段使っているコンデジ（の中ではかなり良いものなのだが）に比べてすばらしいことが分かった。マイクロフォーサーズというシステムが、デジタル一眼黎明期(D70のころ)と同等か、それ以上の信頼を置いて良いものだ判断できたのだ。となるとこれからはデジタル一眼の立ち位置をマイクロフォーサーズ機に置き換えていくことになる。そのためには、エントリー機ではなく、ファインダーの付いたミドルクラスの機種も試してみねばならない、これからのカメラシステムの行く末を占うためにも……。

大層なこと書いてすみません、盛り上がりを見せるマイクロフォーサーズ機の魅力によりやく気づいたところですね。

さて、そんなこんなで、PanasonicのDMC-G2なわけだ。パナのM4/3機（マイクロフォーサーズ機をこれからこの表記にする）としては2代目だ。あらかじめEVFの付いたデジタルタイプのボディ、大きさもM4/3機にしては大きいのでシャッターボタンまで指が余ることもない。オールドレンズをつけたときのバランスも良い(右写真)。ピント合わせ時のクローズアップもジャマにならない位置にあり、もちろんファインダー固定だから妙な方向に向くことはない。またアイセンサーと呼ばれるEVFと液晶が自動で切り替わる仕組みも便利。液晶はバリアングルなので、ローポジションだけでなく、ハイポジション時にも使える。さらに液晶はタッチセンサーになっていて、液晶タッチでシャッターまで切れるようになっている。



こんな機種が2010年春に発売されていたのだ。ちなみに今は次の代のG3になっているが、小型化されてしまい、指が余るサイズになってしまった。またアイセンサーもなくなり、こちらにはまったく食指が動かない。

とりあえず方のお散歩写真を掲載する。一眼タイプはしっかりホールドできるので、手ぶれ補正と相まって、シャッター速度1/2秒でも安心してシャッターが切れる。

